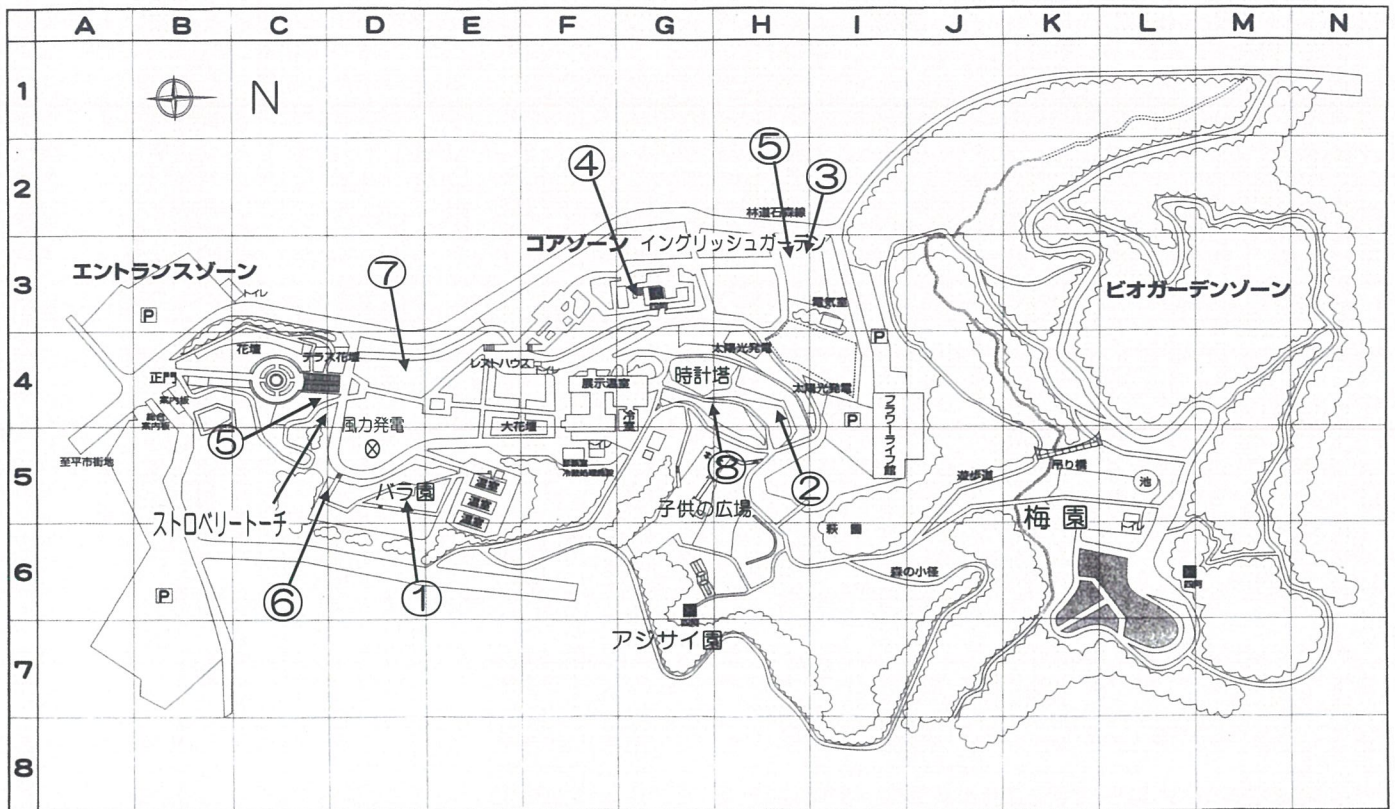


フラワーセンター【5月の花】

2020年度 5月後半

※園内の植物の盗難が相次いでいます。

園内の植物は絶対にとらないでください。



①バラ (風力発電の東側バラ園)

バラ科 落葉低木 原産：北半球各地
 “花の女王”として絶大な人気を誇るバラは、花の美しさ、香りの豊かさで、その名にふさわしい風格と気品があります。日本の自生種、イノバラやサンショウバラなどは、優秀な交配親として重要視されている種類です。



②カルミア (展示温室とフラワーライフ館の間の通路)

ツツジ科 常緑低木 原産：北アメリカ東部
 つぼみは金平糖のような、チョコレート菓子のアポロに似た形で花が開くと五角形の皿型になります。晩春につぼみが膨らみ開花期間は初夏から梅雨入りにかけて約1カ月ほどと長く、終わった花は散らずに茶色くなって残ります。



③シャクヤク (イングリッシュガーデン北側)

ボタン科 耐寒性多年草 原産：中国東部～朝鮮半島
 平安時代に中国から薬用として渡来し、ボタンとならんで豪華な花の代表として親しまれています。江戸時代に数多くの園芸品種が誕生して以来、日本の庭園に欠かせない花となっています。



④フレンチラベンダー (イングリッシュガーデン)

シン科 原産：地中海沿岸
 主な開花期は春～初夏で、花茎を伸ばしてその先端に小さな花を穂状にたくさん付けます。花壇に植えて花を楽しむほか、花や茎、葉などに芳香がありハーブとしても扱われます。



⑤ジャーマンアイリス (大階段脇テラス花壇他)

アヤメ科 宿根草 原産：地中海
 地中海沿岸原産のアイリスを元に改良が重ねられ、今日の姿ができあがりました。花に特有のひげがあることから「ひげアイリス」と呼ばれたり、その色数の多さから「レインボーリリー」とも呼ばれることもあります。



⑥ウケザキオオヤマレンゲ (バラ園南側)

モクレン科 小高木 原産：日本、朝鮮半島、中国
 開花時期は5月から6月。
 奥山に自生するオオヤマレンゲとホオノキの交配種で、オオヤマレンゲの花が下向きに咲くのに対して、ホオノキと同様に上を向いて開きますが、花の大きさはホオよりもやや小ぶりです。



⑦ベニバナトチノキ (フラワーセンター正門前芝生他)

トチノキ科 落葉高木 原産：北米南部
 樹高10m～15mに達する高木ですが、低いうちからよく花を咲かせるので鉢植えにしたり、樹高を抑えて庭木に利用されます。主な開花期は5月～6月、枝先に赤紅色の花をまとめて咲かせて円すい状の花穂になります。



⑧トウオガタマ (展示温室とフラワーライフ館の間の通路)

モクレン科 常緑低木 原産：中国南部
 花の直径は3cmくらいで花びらは厚くクリーム色、フチがほんのり紅紫色を帯びることもあります。花には完熟バナナをすっきりさせたような芳香があり、その甘い香りがこの木の特徴で大きな魅力です。香りには人それぞれ好みがあると思いますが、甘ったるさがさほどきつくない、嫌みのない香りです。

